



海のたより



上マーク回航
ホーネットとセレスティーン

スピンランの
ホーネット



第16回理事長杯レース

優勝 ホーネット
準優勝 ダンシングビーンズ
3位&スモール優勝 ホープ

目次		行事予定
表紙	理事長杯レース、ホーネット優勝	9月20日 9月スモールクルーザーレース
P 2	ホーネット理事長杯を制す	9月27日 MCC佐久島レース(早朝)
P 3	理事長杯写真集	10月4日 マリン広場一斉清掃&バーベキュー
P 4	マリンカップR 優勝スーパーウェーブ	10月11日 JSAF デニスコナーカップレース
P 5	マリンカップC 優勝リトルウィンディー	10月17日 JSAF 三河湾周遊レース
P 6	パールレース、ルートリス8人の侍	10月11.12.17.18日 JSAF 東海チャレオンシップ
P 9	ルートリスの回航物語	10月25日 三河湾合同レース兼MCC

@ホーネット理事長杯を制す@

ホーネットのTAKAです。今回は、何時もと違う目線でレポートしました。

NAKAからのメールで「8月29日の土曜日に船底掃除をしますので、都合のつくメンバーは昼から集まってください！」わあ～、一週間前に言われても都合があり、中々難しいなあ～。でも、行かないと、皆が一生涯懸命しているのにサボるとなあ、悪いし。

金曜日に明日の都合を付け、NAKAに連絡すると「皆都合が悪く、出席者はNAKAとISIそしてTAKAの3人だけだ。」3人だけだと抜けれそもない。痛む心とともっと痛む足を庇いながら、土曜日の昼過ぎに船底掃除に参加した。船底は、ほとんどペーパーが掛けられ、仕上げを残す状態であった。誰が作業したかNAKAに問うと「俺がコツコツと作業した。1人でペーパー掛けをしていると気がメイツチャウ。誰も来ないしなあ！壁谷と家族が応援してくれた」頭が下がります 2時間程で土曜日の船底掃除は終了し、残りはレース当日のメンバーに託す事にした。

レース日の朝8時から私を除くメンバーで船底掃除を行い、いざレースへ！

理事長杯レースのメンバーは、NAKA・MASA・TOYO・TADA・TORI・ISI・TAKAの軽量メンバー7人です。想定体重は、70・60・55・55・55・50・65kg実に軽い。利点としては、ヒールがキツイ時に風下で作業する時に有利、各ポジションに人員を配置できる。= 会費が集まる = 弱点としては、ヒールが起きにくく、重心が1点に集中し難い。ウインチ作業などにパワーが無い。今日のコースは、海陽ヨットハーバーの沖からスタートし、帆走区域標識灯標をAC、東70度の位置にオレンジマークAC、帆走区域標識灯標をC、海陽ヨットハーバー沖をフィニッシュです。

レース海面に出て、7ノット程度の心地よい風を西浦方面から感じながら、ホーネットのスポーツドリンクを頂く。とても気持ち良い。気合いが入ったところで、セールで走る。NAKAいわく、「船底掃除をすると、速いねえ！」TAKA「そんな感じるの？」NAKA「舵を操ると解かる」TAKA「そうなんだ。これでは、ヘルムスマン失格かな！しないけれど」。スタートの時間が刻々と近づき、10分前となる。

NAKA「MCCの艇は本部艇からのスタートが多いから、仮に下マーク有利でも、下には来ないから、大丈夫。ホーネットは下に行くぞ。」乗員が納得し、5分前の時間をセットする態勢に入る。NAKA「7分30秒前！」TAKA「オイオイ・6分30秒前なのに！」無事に5分前セット！

残り時間ゼロ！ホーネットは絶妙な好スタートを切り、一路帆走区域標識灯標へ！スターボアの片上りでスピード勝負となる。今回TAKAはジブシートトリマーを行っている。まずは、自分スタイルでシートとリーダーをセットする。上り角度と、スピードをチェックし、何時もよりリーダーを後ろに下げ、リーチを開き気味に走らせた。スピードはソコソコ以上？(6.5ノット)だが上り角度が悪い？帆走区域標識灯標手前でタックをした時には、アルミス、ダンシング、セレスティーンの後に後退した。船底掃除したのに??

帆走区域標識灯標を3位で通過、気を取り直してスピニングアップ。ホーネットにとってちょうど良い風が入ってくる。早めのジャイブで正面にコンパス角度70度、約1.5マイル先のオレンジマークがGPSにクッキリ。目視でもバッチリ。このジャイブで先行2艇を難なく逆転、風を捉えながらオレンジマークをトップ回航。

帰りのクローズは、先程とは変え、何時ものリーダーの位置とシートの引き込みにして、トリム。後続艇と少しづつ離れていく、よし。帆走区域標識灯標を回航後、スピニングアップ。このレグでさらに離しておきたい、風も12ノット、快調に走り、ハーバー沖でフィニッシュ。後は、後続艇との時間差だけです。ハーバー内で見ると、時間差はあまり無いので、ダンシングとアルミスに優勝は奪われたかなあ、今日は3位かなあと同納得。

表彰式の時間が来たので、我がホーネットは、参加賞狙いで式に参列しました。優勝の読み上げがあり、どの艇かなと他人事のように聞いていたら、何と“ホーネット”とアナウンスがありました。負けたと思っていたから信じられません。こんな嬉しい事は、滅多にありません。優勝カップに、非常に重たい副賞、その他色々。ちなみに副賞は、そうめん20束。やはり船底掃除が良かったのか??

そうめんと優勝カップのりボンを見た時、過去に暑いパールレースの時に茹でたそうめんを海水と氷で冷やして食べた美味しい思い出が蘇りました。ありがとうございました。





優勝はホーネット



準優勝はダシングビーンズ



スモール優勝はホープ



上マークトップはアルミス



天候にも恵まれ好レース 第16回理事長杯レース 体験乗船も好評価



勝てば・・・負けても・・・蒲郡荘での楽しいアフターP 新カップルの紹介も



MCC ホーネット ダシングビーンズ アルミス ベベ オデッセイ セレスティーヌ ウラナミ
スモール ホープ バイキング ハニービー メーヴェ



やったー！総合優勝。

SUPER WAVE・長坂 収

毎年、この蒲郡マリンカップは僕がデインギーのヨットレースでの役員で参加することができず、いつも洋上でこのマリンカップの模様をうらやましく見ていました。

今年はその役員がはずれやっとな願のマリンカップに参加することができました。今年のSUPER WAVEは春にセールを3枚新調し、艇も海上係留から陸揚げしてることもあり、ローカルレースではありますが良い走りを感じていて、マリンカップもひそかに好成績をねらって参加しました。

ところが、いつものメンバーがそろわずクルーを探していたら、新調したセールが「ハリケーン」から購入したこともあり、「ハリケーン」の伊藤陽一氏が乗ってくれると言うとても心強い協力があり、それと僕の地元の碧南高校ヨット部を2年前に卒業したばかりのOB、OGの2名も参加していただき、万全とはいかないまでも十分なメンバーでレースに挑戦しました。

マリンカップは毎年真夏真っ盛りの暑い日の中の微風のレースのイメージなのですが、今年は遅い梅雨明けの関係で朝からジメジメした雨模様。真夏のさんさんと輝く太陽の下でのヨットレースを楽しみにしてたのにちょっと残念。

11:00 から3クラスに分かれているクラスが10分置きに時間どおりスタートし、11:20 に我々のクラスがスタートし SUPER WAVE もジャストスタート。最初のマークに向けて風はアビームからやや上り気味の風でスピンアップもと考えましたがちょっと無理な風である。下から強豪の「ケーニツヒ」が徐々に迫ってくる。「ケーニツヒ」はこのレースで何度も優勝してる強豪艇。何とか押さえておかないと。上マークである小型艇帆走区域限の灯標を「フローレス」に続いて2番手で回航。風は相変わらずにコンスタントに東南東の風でスピンアップを考えるが風がやや強く無理して上げることもないか、と判断し現状維持にてフィニッシュに向かう。



フィニッシュ直前のスピンアップ

すぐ後ろを走っていた「ケーニツヒ」がスピンアップ。しかしやや強い風のため、なかなかうまくスピンのコントロールができない。とは言いスピンで追い上げられたら、あっという間に抜かれるので我々もスピンアップの準備をいつでも上げれるようにスタンバイする。フィニッシュの手前で我々もスピンアップ。後ろから「ケーニツヒ」が激しく追い上げられるが何とか「フローレス」に続いて2番手でフィニッシュする。レーティン

グから言ってひょっとしたらと成績が頭に浮かぶ。

しかしMCCのレースと言って良いこのマリンカップは30~31ftの強豪艇が多いからとても面白いです。それとやはり伊藤陽一氏の経験豊富な的確なアドバイスはさすがと思いました。もし皆さんも機会があれば彼みたいなプロのヨットマンを一度一緒に乗ってもらってレースの技術だけでなくセールトリムもそですがヨットに対する心構えを教えていただただけでも刺激になりますよ。

レース結果は何と優勝、クラス優勝もそうですが総合優勝もいただき本当にうれしいです。このレースに参加してくれた「ハリケーン」の伊藤氏と碧南高校ヨット部出身の若いOB、OGの両名に感謝、感謝です。この若い2名も今回のレースに感動したらしく、次回もぜひ一緒に乗せて欲しいとのこと。こういう若いヨットマン、ウーマンを大事に育てなくては。

最後にレース運営していただいた方々とパーティー担当の方々、本当にお疲れさでした、そしてありがとうございました。





第11回マリンカップ Cクラス優勝

リトルウィンディー高雄です。

早いもので今年11回を迎える夏の恒例行事レースとなりました蒲郡マリンカップ

今年は梅雨明けがあまりにも遅く当日は、各艇準備している時はまだ雨模様ではなかったでしょうか

準備をしながらも各艇の間ではコンディションを探りあいながらの会話が耳に入ってきました。

そんな中、我がリトルウィンディーは、私がフローレスのメンバーに準備を手伝ってもらいながら作業を進め、陸の会場では最近マリンカップの時しか同乗することの出来ないマンガ漁の辰ちゃんこと壁谷さん・お手伝いの深見さんがバーベキューの支度とこのマリンカップは艇と陸との戦争のようなレースなのです。

久しぶりに壁谷さんと乗艇できることもあり万全の体制で望もうと前日に漁港（ホームポート）に行き、艇のチェックを行い船底を海水浴をしながら綺麗にし準備するも、明日（レース当日）の天気はどうしても気になり携帯の天気予報をチェックすれば、予想通り雨の予報。しかし、午後には雨も上がる傾向でしたので前向きにもの考え「楽しもう！」と思いながら帰宅。

当日、朝起きればやはり雨。わかっているもやはり・・・ぐっすん
艇の準備を行い出艇申告をしエントリーリストを見てビックリ！
何と毎年一番初めのスタートのチビちゃんクラスに31フィートの艇が・・・あご下がる
密かにファーストフォームを狙う我が艇としては高い壁が前に・・・これはまずい！！
艇長会議が終わると直ぐに私、壁谷さん、深見さんと艇に乗りいざ海面へ、
何回も何回もタックを繰り返し練習しコースに艇を向けてはスピゲ上がるかどうかをチェック、

雨も上がり日差しも出てようやく夏の祭典らしくなりテンションもあがりいよいよスタート！
コースとしてはポートの一本コースですが、スタートは我が艇だけは本部船を震めるようにスターボードでアプローチし即タックのスタート、ここでスパッとタックが決まればカッコ良かったのですが、在ろうことかジブシートが絡み痛恨ミス・・・ナサケナイ！

トラブルを解消し気を取り直しトリムに集中、やはりなかなかトップには立てず31フィートの百恵を追う展開、後ろからはジワジワとすみれ・アクアマリンが迫ってくる。何とかこの順位を守りマークを回航、ところがトップ回航の百恵がまさかのプレーキ、いつかのスモールレースの時のように大外を回航、そこで念願のトップに立ち突き進む。

が、やはりチビちゃんと31フィートでは良い風が入れば大きい艇はどんどん前に、残り半分の頃にはアクアマリンにつかまり、フィニッシュ手前では百恵につかまり、結局3位フィニッシュ・・・ふ～う！

後半、百恵・すみれと熱い戦いの中ライバルのホープ、ハニービーが気になるころ、で、やはりホープはジワジワと迫りハニービーもスピゲを上げ追い上げ結果は成績表をご覧ください。

今後ともマリンカップを盛り上げて行くよう頑張りたいと思います。



百恵を追うリトルウィンディー



C2優勝、すみれ



C3優勝、プアマナ



R1優勝、ブーメラン



R3優勝、フローレス

我らのパールレース参戦記「八人の侍」

BY. ルートリス山田

7月23日(木)「平穏なるスタート前日」

天気は曇り時々雨の中、名古屋発近鉄 10:21 急行で、川前大洋君と宇治山田へ。同乗すると言っていた田中先生はやはり来なかった。なにやら大好きな地下鉄で遊んでいたようで、乗り遅れたとのこと？！

この先、大丈夫カイナ？

12時着、事前に調べておいた中華料理店にてランチ(小ラーメン+シューマイ+ライス)は結構旨かった。田中先生から電話、「JSAFのバスにも乗り遅れるので磯部からタクシーに乗ってゆきます」何？

12時40分発のJSAFチャーターバスの出発ぎりぎりに入り込む、バスの中にてのMi roku IIのクルー一人と遭遇。茨城県の大洗から毎年参戦とのことで驚く、後のパーティ紹介で艇はYokoyama 12mで手造りとのこと二度びっくり、バスは狭い道を道幅ぎりぎりを通り、13時半VOCに到着した。

18,19日に回航しておいた艇に入り込む。艇に異常はなく、大洋君と雨よけ用のターフを設置する。斜め後ろに僚友BeBeの係留雄姿、相変わらず飲んでいそうである。作業の様子をJSAF写真班に撮影される「舵」に載るのかなー？

14:30 遅れて磯部から田中先生到着、菱田さんより契約書提出締め切り時間の催促があり、急いで提出!15:30から田中、大洋二人が艇長会議に出席、一番遅い着席とのことで又もや菱田さんは冷や汗状態に。私は船底に溜まった水をふき取り、明日昼食用の筑前煮を仕込む。17:00 荒川君到着、これで今日予定のクルーがそろった。17:30 皆でパーティ参加、旨いものは次々と皆の胃の腑に納まってゆく、主要各艇紹介に50年の歴史を感じる。

19:30 パーティ終了。夕闇が迫り艇に行きエンジンを掛け、船首船尾灯などチェック・・・あれ?!コンパスの灯火がつかない。どないなってるまんねん!?!ということであちこちチェック、照明の球切れが判明。緊急手配!!! 武田君、市川君の後発隊に電話を掛けまくる。赤田君の活躍で代替用品が見つかった。明日届くとのことで一安心である。何だかんだしているうちに民宿への車に乗り遅れ、民宿満玉に迎えの電話、20:30 迎えのワゴン車が来た。コンビニ経由で宿へ、入浴後軽くビールを飲み就寝、大洋、荒川両君は深夜一時まで話し込んでいたとか。



7月24日(金)「期待と不安が入り混じるスタート、いざエメラルドグリーン的大海へ！」

天気は晴れ、6時起床、風呂に入り6時50分出発し、小型バスで他艇のクルー13名とともに満玉食堂へ。カマスの干物・コロケ・野菜などを食す、隣テーブルにラグナートの艇Joker 11(Seam 33)のクルーが3名+ハリケン三浦君が同席、昼食のおにぎりを受け取り8時食堂出発、コンビニ経由でVOCへ8時30分着。

現地にて9時からターフなど片付け、艀装開始。氷・氷と氷好きのおっさん田中さんが一貫目の氷を6ヶ船に積む。3個のクーラーボックスは氷で一杯になってしまった・・・食材はどこにしまうのだろうか?「トホホ・・・ヤリスギ、タノムワー!!!!」である。

10時武田、市川、伊藤の三名が到着。こちらもまた食材をどっさり持ち込んだ。二・三週間は漂流しても飢えなくてすみそうである。荒川君、菱田さんがコンパスライトを応急修理、電球が露出しているのので私は火傷を負った。10時30分出港、氷や食材、荷物でずっしり重くなった我らが艇ルートリスは喫水線を下げ菱田・田中・山田・武田・大洋・荒川・市川・伊藤の八人の侍?を乗せながら、貨物船状態でいざスタート海面へ・・・。新しいスピンを上げ、タックの練習をしながらスタート海面到着、皆気合充分で持ち場に着く。

12時05分予告信号に続きスタート、しかし、ゼネリコのため12時25分再スタート、微風のため、船速が出ない中、上ーに各艇が集中、何で150mものスタートラインがありながら、がむしゃらに風上に寄って来るのか。私は何時も不思議に思っていると、その間に・・・「本部艇ぎりぎり狙うよー」とヘルムス荒川君の声。「Chestnut」か?下艇から「入れないよー、無理よー」の声、未だ下側に数艇、やばい上りきれない・・・本部艇と挟まれる、風上艇のJokerは本部艇前で同じ危機を回避していった。

「このままだと絶対入れないよー!!」と大洋君の大声!!!!!!・・・しかし、しかし、ティラーを握ると一途

MCC海のたより9月号MCC海のたより9月号MCC海のたより9月号



なガンコ荒川は言うことを聞くはずなく、突っ込む、突っ込む。ガツーン Saiki のハルに衝突、他の艇にも接触、拳銃の果て本部艇のハルにも接触??・・・「抗議したるねーん。4932 ルートリス!!」と非難ごうごうの中なんと他艇を押し出しながらのスタート・・・(菱田さん独り言: JSAF スタッフの俺の立場が・・・江の島での審問を考えると気が重い、またまた、冷や汗がタラーン・・・??)

本部艇に接触したので、360度二度回転の声、皆さんにお邪魔にならない所で二度廻ってワン! スタートは何時もスリリングな場面を演出するが、

冷や汗ものである。けが人が無くて良かったがこれからも「アンゼン、ダイイチ・・・」を声高に自分にも言い聞かせる・・・とすることでレースに集中、大型艇は一目散に南へ去ってゆく。我が艇は後半組になりながらも良いポジションである。DB を追走しながら、風は東南から走りはクローズホールド一路神ノ島へ・・・。

一時間ほどすると和具の白い志摩大橋の真南の位置に波立つ環礁が見え始めた。前方11時方向、神ノ島! 艇速6.5ノット、風が南に振れはじめる。海の色は日差しが少なくエルクグリーン、心配していた雨はなさそうである。波もうねりも少なく艇は快調に海面を滑ってゆく。14時過ぎ遅い昼食、おにぎりや筑前煮を食べる

24日「未経験のナイトレース突入」

夕方になり各艇は風を拾いに分散し始めた。陸よりに数艇、沖出しが数艇、目で見ている限りそんなに差は無い。夕闇迫るころ伊良湖の真南を7ノットで東に進む。ナビゲーター武田君の設定通り方向80°で最短ラインに乗っている。18時のロールコールのやり取り、各艇とも順調のようである。位置を海図にプロットするとやはり、大型艇が早いと、ナビゲーター武田君から報告。海は日没とともにダークブルーに変色してゆく。

夕食は、武田君手製のサンドイッチを皆で頬張る。夜になり、風が安定しない。艇速は落ち、方向も安定しないが、回りの船とは差が出てはいないと確認安心する。夜半12時、もうぼちぼち御前崎あたりか? 空は快晴ではないものの、雲の合間から手の届くような位置に天の川が見え幻想的だ。風は安定して吹いてきた艇速も6~7ノット出ている。前方に他艇の灯火が二艇、南・北にも一艇、二艇、三艇と灯火が見える。幸いにして、大型船が接近することも無く艇は進む。

クルーワークは2人一組で操船3時間、就寝4時間を3組でルーチンワークとし、その他の人はワッチ&補助として計画を立て、船酔いの激しい荒川君はナイトワッチ班からは外し、フリーとした。ナイトヘルムのがんばりは、大洋君、市川君によるところが大きくスピードも落ちなかった。菱田さんがオーバーナイトでワッチしてくれたので大変助かった。

一方、荒川君はやはり船酔いダウンで船底に・・・船上に出てきては胃の中を空っぽにしていた。また、一番パールに出たかった田中先生も船底の方が好きなようであった。ヘルムは前の灯火が夜明けの金星をヘディングに航行するようになった進路角度80°。夜明け交替前3時半に船縁をたたく音で起こされる。先行班の田中先生がテイラーを持つが、目標物が見えないといって3ノット程度で飲酒酩酊運転状態のように一・二回転する、シバーする、ふらつく。

思わず代わってテイラーを持つことに・・・夜明け前からは荒川君に交替、がんばってくれた。徐々に夜が明け、五時過ぎ、利島から先行艇が利島を廻ったとポイント連絡が入る。我々の位置はまだまだ石廊崎の南である。仕方ないかと思いつつ、6時のラッキーレディナナちゃんからのロールコール、武田君が他艇の中継をする。カイト、ホーネットともに応答が無い? ワカミズ? だかムコウミズ? だかとは上手く連絡が取れた。こんなやり取りを聞いている途中、北に青いスピンを上げ伴走する艇がある。7ノットアビーム状態で時々スピンを潰しながら走ってくるが、途中から抜かされてしまった。また、南の方に風があるようで南の方からも赤いスピンを上げた艇がかなり先方を上って行く。

25日「最終章・待っていたトラブル達」

はじめて見る利島、最初は鵜殿島と間違えていたが島影がはっきりし、利島と確認、新島との間で風が舞っている。2m位の三角波が立っている、島自体は切り立った崖になっているが、白い鉄筋コンクリート造りの建物が崖上に建って山頂の霧雨に咽んでいるように神秘的見える。商売柄どのようにして造ったのか? と気になる。釣り船も一艘おり、こちら当りまでは余裕か・・・。

ジャイブを何回か繰り返しながら利島を回航、大島の東を通ると言う無謀な進路選択をやめ、大島西航路へ、風は20ノット以上出ている。ここでスピンを上げることとした。もともと、軟弱な我々は強風下でのトリム経験が

MCC海のたより9月号MCC海のたより9月号MCC海のたより9月号

ない。艇速は8ノットを超えているが、艇が安定してきたので、一睡もしていなかった私は、ここらあたりが限界と船底に眠りに入った・・・ん？！

「ドタドタ、ドシーン」と船上で踊っているやつらがいて眠れない、何かと気になって船上に出ると二重三重にスピンが提灯状態、何とかしようと思いついてあれこれやっているが中々うまく行かない。真ランに数回落としながら風を入れスピンを廻しながら回転やっとの思いで解消・・・上手く行った！と思っていると、「ドシーン」スピンポール先端が落ち、パロットピークが割れた、スピンを上げられない！！？落胆していると、「プツーン！！」、「アレレー、のレー！！」、悪いことは重なるようで、今度はバックステイのシートが切れた。

このままだとデスマストの危機、再三のトラブル、荒れ狂う風、迫る本船、襲う波、危しルートリス・・・
一巻の終わりが、リタイヤーが・・・！！（既にデスマスト艇が出たことを無線で知っていた。）

幸いバックステイは下部のシート切れのみで、上部は健全な状態であったが、シートが風に持っていかれ振り子状態、危機脱出のため、クルーは狂うように動き出した。伊藤・市川両君が、ポートフックにバテンを継ぎ足し引っ掛けようとするが上手く行かない。船を下に向け振り子状態のステイをたぐり寄せ何とか伊藤君が奪取、武田君の「取ったぞー！」・・・と鬼の首でもとったような声、小躍り状態で手繰り寄せ、20数年の船歴ベテラン菱田先生が落ち着いて丁寧にシートを修理。事なきを得、皆、安堵・安堵・安堵であるが、ここまで約一時間半のタイムロス、船は行きつ戻りつ酩酊状態で、ほとんど前進していない。（どこでもヨットの航跡ではこの有様をはっきりと再現しています。）

25日夕「歓喜のゴールへ！！」

さあーて、気を取り直しトリム、風は南から20ノット以上で吹き上げ、艇は上げ潮にのり「波乗りシンドバット状態」で北へ、速度対地は瞬間20ノットまで出ていたようで、対水速度はMAX13ノットを表示、11ノットをキープ、大島ハイウェイに乗って艇は快調に飛ばして行くが・・・。あっという間に陸地が見えるはずなのに中々見えない（当日は陸地に霧、雲が掛かり見えにくかった。）

東京湾行き来の本船航路の中、右に左に貨物船やフェリーが次々やってくる。しかし、それをものともせずスキッパー荒川が気合を入れてヘルムする。先年のパールレースでは「終始船酔いグロッキー状態の借りを返すぞ！」と気迫を見せがなせる。ナビゲーター武チャンからヘディング0°の指示。しかし、艇の安定と走りを考えアビーム気味にトリム、タックをくりかえしながら、強気なガンコチャンスキッパー荒川が行く。

その時背面から観音開きの艇が真っ直ぐフィニッシュラインへ突っ込んでゆく・・・タックを繰り返している我々を見る、見る間に抜かれてしまった。艇はふらつきながらも海面が霞む中ゴールへ・・・。オー、船が見えてきたぞー・・・何だか動いているぞー、アンカリングしてる？ゴールの自衛艦かな？自衛艦にしては箱型で変な形？？突如、見えはじめた自衛艦を皆が不思議がる。「お座敷自衛艦だから、あんな形だよー！」と乗船経験者の菱田さん。

左にマークブイ、自衛艦を右に見ながら遂に「プォーン」とゴールのフォーン、18時30分フィニッシュ！！「ガオー！ワオー！ヤッター！キャイン！」と狂ったクルー達の雄叫び！！皆念願のパール完走である。私も興奮し、感涙してしまった。皆よくやった、有難う、有難う・・・。五ヶ所湾トラブルスタートから30時間、皆で協力しながら良くがんばった。

（江の島 伊東 御前崎 伊良湖への回航物語へと続く・・・）



スタート前の侍八人（撮影：中村さん）

前列左から	後列左から
大洋（VMス・スピ）	菱田（ボース）
伊藤（ジブ・スピ）	山田（VMス・ジブ）
市川（VMス・スピ）	荒川（VMス）
武田（舵・通信）	
田中（舵・記録）	

おじさん三人達の回航物語・・・

回航編は活字ばかりですみません

BY:ルートリス山田

26日(日)回航初日、「稲取に行こう！」が、何故か伊東になっちゃった編
天気は晴れ、山風が結構吹いている。

(ゴール直後の自衛艦)

さて、次の日、藤沢東横イン(江の島では宿が取れなかった。)で目覚めた我らは、セットの安っぽい朝食を7:30過ぎに食べ、ゆっくり寝てから帰るといふ伊藤君を舳へ残し、所用で帰る市川君とも藤沢駅で別れ、菱田、田中、山田、大洋、荒川の五人は、小田急江ノ島線に乗り片瀬江ノ島へ、とそこでトラブル発覚!トラブルおじさん二号(当艇にとってトラブルおじさん一号はお辞めになった堤脚である。ドタキャンを始め艇当日の運用にかなりの支障をもたらすの意味。)の田中先生が、回航に必須なノートをホテルに忘れたと騒ぎ出し、ホテルへ電話、伊藤君に持って帰ってもらうことで落ち着。江ノ島駅から徒歩で海水浴客達を横目にハーバーには10時到着、JSAF借用バースへ艇を廻し、給水、給油、ゴミ捨て、セールチェンジなどを行う。大洋君が、今日中に帰れば良いとのことで回航に途中まで乗船してくれることになった。心強い。



11時半見送りのガンコチャンスキッパー荒川君とも涙の別れの出港・・・

ヘディングは一路、初島経由稲取へコンパス200°艇を安定させるためにジブセールを上げ、機帆走するも艇速はクローズで6.5~7ノットと上がってゆかない。このまま行くと19時過ぎ稲取着になりそうだ。大洋君はどうしても今日名古屋へ帰りたい。熱海駅新幹線の最終は21時何分ととか・・・急遽、伊東泊と相談をまとめた。ヘディングは270°に変更、クローズの風はアビームとなり艇速が上がって7.5ノット。

ふと、横を見ると同じ様にジブのみ上げて帆走するヨットが一艇、方向も同じ270°やはり伊東に行くのか?風がやはり強く、波をかぶりながらのセーリングとなったが、陸寄りに走ったことで南からの風が少し落ち波も次第に納まってきた。とその時、やにわに、菱田ケンケン(和式トローリング釣法)が登場、相模湾での初漁の開始である。途中までオートパイロットでの走行であったが、小田原付近から山寄りの風が強くなりタック、タックを繰り返す。見かねた、大洋君がテイラーを持ち伊東までの難所を耐えてくれた。

相模湾の西エリアを始めて走ること4時間、初島が見えてきた。熱海からの高速フェリーと行き交う。艇はさらに南下、伊東を目指す。本日2時間の釣果も無く、菱田ケンケン~撤収。「伊東にゆくならハトヤ、電話は良い風呂!」と古いCMを歌っている場合でなく、トラブルおじさん二号田中先生の手配にて、今夜は海の駅「伊東マリントウン」にご宿泊です。

17時過ぎ、行く手にマリントウンの三角屋根の建物が見え、その横にグリーンのがスタックがあった。我々は先行する艇を見るがスタックの方角と目印を決め進むが、トラブル二号おじさんはもっと南と言いきる。とにかく、陸地へということではやはりスタックの横にマストが見えその方向へと進行し、ハーバーについた、17時30分過ぎ、ピジターバースには50フィートクラスの大型艇が既に2艇もやっていた。

トラブルおじさん二号田中先生が係留の申し込みに行ったきり帰ってこない。我々は片付け、給油を行うもまだ帰ってこない。やっと帰ってきた。風呂・食事場所などふらふらしていたようで、又、氷を大量に仕入れてきた。その後皆で風呂へ。800円/一人と高いがゆっくり湯につかり疲れも取れて出てくると、受付カウンターで二号おじさんが店員と何か言い合っている。「ロッカーキーを二本持って行ってしまった。」と何とかクレーム状態・・・風呂のロッカーを見に行ったり、何やらしているうちに問題解決したらしい。

さっぱりしたところで大洋君とはここで別れ、20時前別れを惜しみながら握手。この先大丈夫かな?!と不安ではあったが、気持ちを切り替え、今夜のつまみとお土産を調達、トラブルおじさんはチャッカリ焼酎を調達してきてくれた。(会社へのお土産のお茶ミルフィーユは女性社員から好評であった、また、買おーと!)

船に帰り、シコタマ残っている食材から夕飯を少し調理し、酒のつまみを作り、ビールでカンパイ。つまみは生ものを先に食べようとキュウリ、トマト、キャベツが主体のキリギリス、青虫状態。食べ過ぎると明日からセンチ虫歩きになりそうなほど食べてしまった。「お通じよくなるよー」と菱田農漁師。宴会途中で私は眠くなり船底就寝へ、宴会は盛り上がり飲み続けたようで、田中先生はかなりろれつが回らない。(菱田農漁師の後日談2日後に人間ドックを受けるため、あれでもかなりセーブしていた。)

MCC海のたより9月号MCC海のたより9月号MCC海のたより9月号

夜中ブーンという蚊の飛ぶ音とかゆみで起こされる、十箇所くらい喰われていたようで足腕、あちこちが痒い、勝手知った江ノ島から来た艇はちゃんと蚊取り線香を焚いていた。夜中二時過ぎ、「ドタ、ドタ、ズドン、シーン！」どうした？と思いきやトラブルおじさんが起き船上に出てひっくり返ったようで、急に静かになり頭でも打って倒れているのではと心配で出てみると横たわっていて「何ですか?」。まだ、完全に酔っ払っているようである。そんなこんなで騒がしい夜は寝付かれずに過ぎていった。

27日(月)回航二日目 「御前崎へのロングラン」の編

午前四時、起床、菱田農漁師と二人でバタバタと出港準備を始め四時二十分出港、天気は晴れ、風弱し、まだ、星空の残る海の駅「伊東マリタウン」を後に、一路、御前崎へ……。東の空が赤く明るくなって、遠くに入道雲が沸き立ち、その合間からお天道様が顔を出してきた。海はまだ黒く、鏡面のように静かな中、レース時よりも軽くなったルートリスが行く。漁船が一船我々の前を横切る。もう一艘が漁を終えたのか伊東港に向かって行った。

半島の山は朝焼けで赤く焼け付いている。静寂の中ルートリスのエンジン音だけが響いている。伊東の沖の奇岩手石島を右手に、左手に遠く初島を見て艇は東に進路を取り進む、爽やかである。四時四十分、手石島を迂回し、進路を南に向け艇速 7.5 ノットのフルスロットルで走る。ここからはオートパイロットの出番である、進路は200°まず目指すは、伊豆半島の爪木崎沖、右手に川奈ゴルフコースが見える。私は30年前三島に住んでいた、その頃釣をしにゴルフコースを横切って海岸へ行ったことを思い出す。当時ゴルフ場のレストランの最も安い食事はカレーライスで2,000円と聞いた。私はゴルフもやるが、川奈は高級なので行けなかった。そう思っていると富戸の切り立った海岸が見え、その向こうにお椀を伏せたような木の無い大室山が見えてきた。海の青、茶色の海岸、濃い緑の森、薄緑の大室山と自然の作り出すコントラストのある絵画は何と美しいのであろうか。

この美しい光景をトラブル二号おじさんに見せたいが、二日酔いでご就寝である、そう考えていると城が崎の海岸、伊豆海洋公園あたりが見えてきた。数年前にこのダイビングセンターで講習を受けオープンウォーターの資格を取った懐かしい海岸で、ゴロタ石が多くエントリーに難儀するものの、水中の魚や生物の多い海域である。私とバディを組んだあの娘は今頃どうしているやら……。

私は伊豆での思いでも多く、下田でホテル、三津で水族館を建てる仕事をしてきた。風向明媚で好きな土地でも有ると考えていると空腹感が出てきた。朝食の段取りを始める。昨日の夕食は青虫状態だったので、今朝はご飯と味噌汁にすることとした。ドライフーズの白米と五目米に湯をすすぎ、味噌汁も即席で作り、主菜はちくわとソーセージ、久しぶりのご飯は結構旨かった。食後、コーヒーを入れ、ラジオをつけると「NHKラジオ体操の時間でーす!!」「腕を前から上にあげてー」に従い、おじさん二人が船上で体操、陸から見ていると異状な二人である。

しかし、未だトラブルおじさんは起きてこなかった。その方がよかったのかも?そうこうしている間に船は稲取を過ぎ、爪木の灯台が見えてきた。時間は8時、何やら雲が湧いてきた。と思いきや、アッと言う間に霧の中、ヘルムはオートパイロットにお願いし、(二日酔いのトラブルおじさん二号は使えない)菱田さんと二人でワッチを決め込む。6ノット以下とし、レーダーリルクターを上げガフォンを手元に置いて緊急事態に備える。

7時のニュースでこのあたりには濃霧注意報が出されていた。根も多く緊張する、視界は狭い時で50m程、波が無いことが有難かった。又一と、突然マストのようなものが霧の中に現れメチャクチャ驚く「ギョ!ギョのギョ!!」である。海上から6~7mのところマストのようなものが浮かんでいる。航路の関係の目印なのか、かなり大きなブイであった。霧が少し晴れたり、又、出たりを繰り返しているうちに、遂に霧が晴れはじめた中に「神子元島」が現れた。



「ドン・ドン・ドン田中サーン」と寝ているトラブルおじさんに業を煮やした菱田さんが船縁を叩き、田中先生を起し、「神子元島や伊豆半島を見とかなアカンヨ!!」とキツイお叱りを一発。神子元島は、船をひっくり返し、その上に白い灯台を置いたような形の島で釣のメッカでもある。私も30年前に下田から渡り、釣竿を出したものである、当時は石鯛が狙いであったが、外道のたかべ(大きさは鱈くらいで、体が青く黄色の側線がある白身の美味しい魚)が良く釣れた。たかべは今では伊豆近海でしか獲れない高級魚で一匹300円もする。

さて、目を伊豆半島に向けると弓ヶ浜の沖合いの石取・横根などの岩礁が見え、少し行くと、伊豆の切り立った岩場の上に灯台が見えてきた、石廊崎である。この辺りから人家も少なく自然があらわにな

った岩場が多い、深緑の山、茶色の岩、白く波立つ海岸に沿って走る時刻は12時を過ぎたあたり、数隻の工用クレーンを積んだ本船と行き交う。

よーし昼飯は青虫に返り、サンドイッチを作ることに、残りもののキュウリやキャベツがまだ山ほどある。悪くなった部分を捨て、これもまだ沢山あるパンに挟んで食べる。飲み物はコーヒーと水、食事が終わると伊豆の山々を背に駿河湾を一路、御前崎へ290°35マイル、7ノットで約4時間と田中先生「ゲーター」のコメント、駿河湾ひとりぼっち状態で行き交う船もない。菱田ケンケンは今日もまだ成果がない。

どこにも魚がないようである。釣果のないまま、二時間、伊豆半島も遠くになり、雲行きが変わってきた。遠くに雨雲があり雨が降っているのが判る。皆急いでカッパに着替える。そのうち雨が降ってきた。見るとトラブルおじさんのカッパは破れ尻が丸見え状態、「どーしたの」と聞くと、「古いカッパは中が老朽化して、生地が剥離し、白く粉状になって破れ出ているから」とのこと。「良いから、カッパにして」と着替えてもらった。

沖だしの潮に流されながらも、そうこうしているうちに御前崎が近づき入港のコンタクトをマリナーへ田中先生が連絡、持ち込みの港湾地図を出し、堤防や灯台の位置を盛んに口で我々に説明するが、近づいてみないと判らないのである。なのに、なのにくどく説明するのである。海から見て、ポイントは建物やマークできる物であるが、その説明がないので、マリナーに聞いてもらった。港湾にある荷揚げ用赤クレーンを目印とすること。

その後水路に沿って入るとのことであるが、水路が見つからない。陸にマストを見付けその方向に船を向けると航路ブイがありその真ん中(それ以外は浅い)を進むとマリナーの係留ポイントへ、16時着、16時30分に民宿に迎えを依頼、燃料が半分以下給油がいるのを確認、タンクの水がなくなり補給する。棧橋は二本ほとんどモーターボートである。陸にヨットが数艇おいてある。事務所は仮設平屋ハウス4間角。出港は自由な時間でOKとのこと。完成して間がなく、細かな規則はないようである。(係留2,000円)

16時30分民宿のおばさんが軽ワゴン車でお迎え、何もなし御前崎メンストリートを走り、車は灯台横の民宿『岬』へ到着。氷好きのトラブルおじさんがまた氷を注文したが、「まだ、船に売るほど氷がある。いらないよー」の菱田さんの一言で却下「キャー」である。「ハーバーは平成16年に静岡国体の時にできたのよー」とのこと。民宿に着くなり、早速風呂に入る。小さな風呂で三人入れれば一杯であった。

夕食は、魚料理、お造り・車えび塩焼き・生しらす・てんぷら・ひじき・金目の煮つけ・マグロカマ焼きと豪勢であった、特に金目は丸ごと一匹煮つけてあり旨かった、菱田さんは以外と大喰いで、一人でマグロのカマを食ひ、ビールを飲み、ご飯を2杯食べていた。田中先生はビール二本と日本酒を飲んでいたので我々が終わってから飲んでいたのである。夕食が終わり、菱田さんと私はお土産を買いに御前崎グランドホテルに行った(同ホテルは25年以上前に我々がSカンパニー施工物件で漏水が多い建物であったと聞いている)ロビーには客の姿もなく、閑散としていたが、土産を買って退散した。この日は翌日四時起床であったので、即、ふとんへ、バタンキュー?!

28日(火)港町ブルース「おーまーざーきー」を後に一路、三河の国母港蒲郡へ。翌朝四時に起床はしたものの、民宿おばさんが起きてこない、探し・探し求めて、ひとり、ひとりさまよえば(何故か歌詞が長崎は今日も雨だった。になっている)と民宿内を探していると起きてきました小太りおばさん。「遅くなってゴメンよー」と優しい静岡弁、急いで軽ワゴン車でハーバーへ。その時、ハーバーのフェンスに錠前が・・・すわ出港は? トラブルおじさんハーバー管理人携帯に電話、錠前の番号を聞き開場無事到着、民宿、岬の良く働く小太りおばさんに充分にお礼を言い出港。

4時40分曇り、港付近は浅いとトラブルおじさん情報にて東に沖だし、御前崎港大回り航路を取る途中、岩礁ブイ、菱田さん曰く、「マリンロボといって漁礁が沈めてある」真横で魚の鱗が見えた。サメのようであった。御前崎をまわりヘディングは280°伊良湖岬を目指す。薄っすら霧の向こうに御前崎の灯台が見えた、さらば御前崎世話になったなー。漁協の近回りコースは不案内のためトライしなかつた。

西への進路が安定したところで、朝食、今日もパンであるが、変化を付けるためパンを焼き、即席スープを作った。キュウリ、レタスは生で食べた。今日は天気が良くなさそうなので、乗船時からカッパを着用した。船はフルスロットルで西へ、西へ11時30分ごろ浜松市の南に位置する辺りでは雨模様の天気ではあるが未だ降り出してない。早めの昼食と言うことで、最後の野菜とちくわ、魚肉ソーセージを野菜炒めにし、最後のパンと



赤白のガントリークレーン 2基

もに頂く。旨かったのは即席卵スープ、温めたコーヒー、食事が終わったところで雨が降り出す。

ワッチは菱田、山田で行う。何故かトラブルおじさんは船内が好きなのである盛んに海図と三角定規とにらめっこ、菱田さんと「西280°一直線なのに何でコンパスを出しているのだろう」と不思議がる。360°見渡せるので海上から雲が湧き、濃縮され雨が降るといふ自然の気象状態がどこでおこっているのかが目で判るので何時ごろから降ると判るのである。また、雨は強く降るものの、早いスピードで移動しているので15分程度で去ってゆく、この繰り返しを数回経験、陸地も雲がレ点のようになり、たなびいている。気象予報士がテレビなどで「海上から雲が湧き雨になるでしょう」といっているが、ほんとうに彼らはその現象を見てきたのか？疑問である。

渥美半島の少し手前で、艇速を上げるためにメウを上げる。その効果が機帆走で対水8ノット以上出ている。また風と波も同じ方向で波乗り状態になってきた。「対陸速度も8ノット出ている。」とガーミンGPS持参の菱田さん、ヘディングは290°とトラブルおじさん。

14時40分伊良湖岬沖通過、中山水道手前で大型貨物本船が待機している。伊勢湾に入っていく様で我々と行動を共にしそうな雰囲気、対向漁船、三ツ磯の根も岬からずっと出ており、細心の注意を払いながら艇速を落とし中山水道の外を平行に航行する。

前に漁船、横にも漁船と臨機応変さを求められる場面なので、オートヘルムをやめ、ティラーを握る。前後左右の漁船を避けつつ、三河湾へ・・・先ほどの大型貨物船は名古屋港へ向かう進路のようで一安心、メウセルの三番辺りのパテンが飛び出しそうなので、セールを下ろし、完全機走に。野島沖15時30分、勝手知ったる三河湾に入り、菱田スキッパーが髪を振り乱しながらフルスロットルで大島を目指す。どうも迎えの孫に早く合いたい一心でスロットルレバーをフルに踏んでいた。

海陽ハーバーに電話し、18時帰着と申請、久しぶりに逆から見ると三河湾は不思議な光景であった。野島沖から少し行くと小島が見える、最初どこの島かと思って見ていたが、南西によっていたため小島が見えたようである。西浦半島手前で雨が降り出し、せっかく仕舞ったカッパを着る羽目に、西浦を17時に超え急いで整理整頓を始める。懐かしい大島、仏島、小島が見え帰港を実感する。

予定通り18時無事海陽着、あのガチンコ荒川君が待っていてくれた。会社を早退して手伝いにきてくれたそうで大変助かった、感謝・感謝である。菱田さんは奥さん、子供、孫のお迎えを受けご満悦で帰宅して行った。私とトラブルおじさん田中先生は荒川君の車で蒲郡駅経由で帰宅の途についた。

疲れを引きずりながらも、最後はトラブルもなく無事帰り着き、皆さんに感謝、感激、と云うことで筆をおきます。有難うございました。

懲りずにあとがき

思えば、「何とかパールへ出たい。」との3月15日、海陽での会合から約半年、会合を重ね、資金調達・練習・メンテナンスと7月18日の出港以来、25日まで無事に良くここまでやってこられたものと感慨深いものがあります

菱田さんのメンテナンス力、若者達の操船力（特に大洋君の参戦は有難かった。）武田君のナビ&コックとしての食料調達力、田中さんの出場意欲と皆の力が集まって完遂できたことは今後も大きな力となると思います。いろいろ課題が出てきましたが、皆の力を結集することで克服し、より良いヨットライフを過ごして行きましょう

最後にいろいろ勝手に失礼なネーミングをさせていただいたことにお詫びを申し上げます。また、ホーネットさんが立ち寄られた新島のあのようすばらしい写真は、我がルートリスでは撮れていません。悪天候のせいだけでもありませんので悪しからず。

平成21年8月11日記

最近の三河湾、スナメリを沢山見られますよ！！

8月末 アクアマリンから



MCC海のたより9月号MCC海のたより9月号MCC海のたより9月号